



崎陽雜記

附錄

上



服部文庫
117
1506
/



欲歸斜照裏偏憐掌上鬪芬芳

又

芙蓉灼灼映金塘偏覓雙頭香滿裳風拂
珠簪雲髻亂笑將水鑑欲重粧

又

蘭舟盪出水中央婀娜芙蓉映浪香素手
折時多並蒂清流採欲贈吾郎

又

画舸爭蕩大堤頭婀娜芙蓉水上浮紅粉

嬌歌回棹棹花間歡笑逐郎遊

崎陽雜記

附錄

壬辰氏書上



一昨五日卯上刻海堤遠見島洲より白帆多艘
見ゆ。一岩山より市川沿を舟より走り
遠見より日給山より阿摩陀船入津し
以花例通蕨合より居る。捨使家
夏谷磯上川結草通網を糸出收る者
より紅色人五人正午刻破戸場出船小
瀬戸より新越山より阿摩陀舟に
お通し神より山より阿摩陀舟に

神功神子のおたけ彼中船に乗舟脱れ物
上へ賜舟お舟知中船より七八人飛り
いづれと接持し紅毛人あ人と雖も川
守奪ひし中へ通洞橋役警以所柱村依
七島あ人紅毛人といふは返一丁と瑞
物解の飛入の物船をあれは右あ人入江
なり



但通洞あ人入中より表向ハ中文と通
布告しとも田舎ハ其神に恐れお中

通洞の事風波とあり又右返一
とあ人の舟に下とあ中に投られ
る風波の事といふれと西説もあ
るなりともあ中に落入ハはお違

左の如し

右通洞と右橋檢使しあ人も大さき事
通洞の事別なり西河より當所は通
洞の事此地役人等皆我より通洞
の事と通洞の事とあ中に落入ハ通洞

いれも漸く船より降りて舟のついでに
船より下りて

此の處より三里半あり

是れ近き陸地と戸町とありて舟より

山奥 舟中より別

其の舟より舟中より別

船より入船船より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

舟より舟中より別

[illegible]

陸子伯父西役所
掌事交代の
前六

市中に大所を以て居る者ありて、
 市に先づいふれども、
 破戸場より七條竹束と
 所年若しと三十人
 市に先づいふれども、
 破戸場より七條竹束と
 所年若しと三十人

山代君所一よりお固められ右の如く陸子
 の方へ随分貴重にお入へて下さり仲子も船の
 逆廻りな程を被るゆゑ子もいささか仲
 子は毎年の海渡舟よりお入へる計哉
 と云々なりと云て親をいささか慰め
 山代より山帆様へはなとあ當り下り候に
 従方々下りも少人敷くは候と云はれ
 き中へ云々候

但一人教とて、
當年新學陀那

今も事柄をいふや時をいふはあや
うけり母をいふ所并北段人か連ひ
而も等々失費して川拂ひも
漸く武士十人中は僅に千人金難無
旅合百人は不足し人る船七艘計り
より外は各石中減り少人救ふは
能く表より人救ふ石中減り少
お綱のきりーい

一 由緒新しき金不しれい

一 下知しなも大分節遠ひのうき
そえし 石坪判しうき金く不き
一 混雜のしおるいん 風歩、うき
一 兵船ハ多し大船一船、秋客も
遠く軍船おるいん 石大矢二
百挺し又ハ八十挺も平挺し
いん 漸く通し候し足定め
いん 風歩、秋客も
梅子、うき

夢能人通羽士何處中... 白帆舟... 檢使... 夢能人... 白帆舟... 檢使... 夢能人... 白帆舟... 檢使...

白帆舟... 檢使... 夢能人... 白帆舟... 檢使... 夢能人... 白帆舟... 檢使... 夢能人... 白帆舟... 檢使...

云々右舟一艇と付書あり川舟と云
物吳玉紙の如き三艘あり一艇は中人宛書組
石火矢渡地より外武芸士お供へ渡り漕入り
足る少る各船は漕船一艇十一日にも又
り舟を渡渡り大夕尾より迎へ漕入り舟
五捕一平と十船を漕出り少くも追ひ
つれまゝ石居沖より方川船一舟を渡り
物紙入船とい
阿蒙院人より物紙入船より五船を渡り

舟より物紙入船より市中へ渡り中へ舟を渡り
かゝる如く舟は梅屋より少くも渡り
舟は舟文書仕

舟屋より舟は舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より
江戸より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より
舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より
舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より

別紙より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より
舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より舟屋より

下名布衣あつて得た意あはるる者様

九月廿一日

岩村多吉

曾呂破屋

ね、吳玉取派来也。私等、山後町に在る。此
四等、破屋、此、石、捕、一、ら、ま、い、あ、人、と
馬、一、つ、た、な、い、し、う、破、方、の、吳、玉、人、あ、人
連、中、り、つ、た、な、い、し、う、破、方、の、吳、玉、人、あ、人
吳、玉、人、の、中、つ、た、な、い、し、う、破、方、の、吳、玉、人、あ、人

聖十、二、日、五、七、日、以、中、り、一、つ、た、な、い、し、う、破、方、の、吳、玉、人、あ、人
初、ハ、破、り、討、死、し、若、様、は、あ、り、也、先、生、様、と
お、勤、め、休、ま、い、て、ら、い、ま、す

八月五日在居仁堂一宿九月朔日
至居仁堂内事接

一 初平昔言以夜中由月十八日据云一吴王叔
出帆より向ふ側へは是れお原お神へ始末云々
其帆船は後へは是れお外お神へ言ふは此はまへ
より大子お神へ言ふは以後お神へ同じ又お神へ
しお神へ言ふお神へはしし事へは改腹なり
云々くお神へ言ふお神へはしし事へは改腹なり
詰りお神へ言ふお神へはしし事へは改腹なり

一 十日、晴夜、右吳玉、舟三艘、高麗、
登、下、後、因、美、八、船、ち、高麗、足、分、政、一、居、
と、早、走、ハ、強、令、人、教、少、く、出、遮、止、メ、
石、洞、當、一、足、流、一、高、高、義、主、金、く、通、年、
と、や、私、船、も、不、幸、い、と、合、内、く、と、玉、五、一、川、
あ、ち、高、高、と、漸、人、教、口、中、人、も、お、信、居、い、使、
下、詮、三、艘、一、吳、船、と、寄、寄、る、
見、逐、一、一、派、海、く、お、取、違、い、
也、定、法、一、人、教、も、方、一、右、新、一、漏、
場、と、口、を、
口、外、一、等、一、政、一、延、
及、以、後、ハ、私、船、く、不、洞、法、と、
生、る、者、石、の、所、
又、不、
一、吳、玉、人、
焼、付、
い、
い、
い、

一 吳玉人より法外、横文字、
焼付、
い、
い、
い、

も半二七系脈も若くはせ能方より 體亦又若くは
以能方よりめい系ハ半克人教不足を和要ハ九板
江ハ版石洞法中披済方とト一ヶ條

一 大村上鑑及今二所斗も早ク若くはハ中候少政
訓ハ人教系比ハ役人又ハ役事捕テ人教ホカ
合ハハ體討も一任ハ延能ハ人教局ハ合事也
上鑑及若くは延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能
玉亦ハ帆仕ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能
なりハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能

ト一ヶ條

右今條ハ調法ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能
ト今又延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能
場ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能
延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能
延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能
延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能

八月十八日

江平書政

高延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能

延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能ハ延能

多

[illegible]

中人申あつて、諸合の人教を、
あまの咎めを、てなすの風を

一 飛ぶハハ、飛ぶ方、
□□小舟、又ハ、
ち、
肥後ハ、

一 飛ぶハハ、
飛ぶハハ、
斗、
は、

飛ぶハハ、

一 飛ぶハハ、
の、
と、
小、
さ、
か、

但

一 飛ぶハハ、

し書付去月

一 紅毛人より由安和し由安和と船名書付一通

一 英王より英王の横文字し和解一通

右三通引次記ス

丑ケレス 船名書付横文字し和解

昨 薩合とくく多し阿摩陀人布せゆと書志

まじわあ人とか船(新)連城し以て洋中

食お掃庭及びいふ今日在食お船のにお

右船よりいふ船名書付人先上陸致

是の船何と名ふか船(食)お船送つてふい

たいつ今書人船り居るまじわあ食おお

きい上船送し出帆して紅毛人今日中食お

船中送しおわくハ船名書付日中船名

船名も船名書付

丑ケレス 船名

右三通和解紅毛人書付

辰八月十六日

阿摩陀

年書通詞

希文云之通之書內不道不勝言也此八
畧之末一通上多字少凡

又
荷花水面浮
高歌齊唱滿
中流
又
荷花水面浮
高歌齊唱滿
中流
又
荷花水面浮
高歌齊唱滿
中流

大士...
...

蘭...
...

人

主...
...

...

人

...

...

人

...

...